鶴嶺中学校だより

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校
学校だより　№２
令和２年　５月１１日
校　長　　一星　光利

☆再度の臨時休業で思うこと

連休明けの５月７日（木）から学校を再開したいと思っていましたが、臨時休業は５月３１日（日）まで延長されました。残念ではありますが、神奈川県の緊急事態宣言が解除されていない状態では仕方ないと思います。

４月７日の日に配付した生徒の皆さんに向けたメッセージには、とにかく今は、**「我慢と工夫が大切だ」**と伝えました。５月２日（土）～６日（水）の５連休を楽しみにしていたご家庭もあったと思いますが、今回の連休のお出かけは**我慢**をするしかなかったと思います。

家の中でずっと過ごすのはストレスの原因だと思いますが、「閉鎖空間」の中で普段のお仕事をする人もいます。私が「閉鎖空間」で仕事をする職業として真っ先に思い出したのが“宇宙飛行士”です。茅ヶ崎市内の小中・高等学校出身の野口聡一さんが宇宙に行くのは、次回で３度目となります。前回の２０１０年のＩＳＳ滞在の時は、私は浜須賀中学校に勤務していたので、体育館に集まった生徒が宇宙にいる野口さんと無線で交信したことをはっきりと覚えています。

漫画の「宇宙兄弟」を読んだことがある人は、宇宙飛行士が行う様々な過酷な訓練があることを知っているかもしれません。

さて、次に紹介するのは長期滞在経験のある宇宙飛行士からのアドバイスを、金井宣茂宇宙飛行士がツイッターで取り上げたものです。参考にしてください。

◎「なぜつらい思いをしてまで外出をしないのか。それはウィルスが広がるのを少しでも妨げるという大義のためだ、と自分に言い聞かせている。」（元宇宙飛行士・女性）
◎「外出できない期間を飛行訓練に見立て、２個のトイレットペーパーで３週間乗り切れるかどうかに挑戦しています。」（ドイツの男性宇宙飛行士）
…つらい思いをユーモアで返す心の余裕を見習いたいです。

今までになったことのない気持ち

ぎゅーっと何かがつまっている
ポタリッと何かがこぼれてる
あぁ　これはきっとあれだな
毎日当たり前のように友達と
笑っていた時の笑顔が
たまっている
毎日当たり前のように会う友達と
会えなくて涙の蛇口が開いている

（横浜市・中学校２年生）

休校になってから、塾も部活も全てストップ。「胸の中がモヤモヤしていた。」気持ちはまだスッキリしないが、「もう一度、１年生のクラスで授業を受けたい」という。

読売新聞の４月１８日（土）の朝刊に掲載された神奈川県の中学生が書いた「こどもの詩」を紹介します。

左側は投稿された詩に対する選者のコメントです。正に、全国の中学生の気持ちを表して語ってくれています。普段は気づきにくいですが、緊急事態が起きた時には、**「当たり前のことを当たり前にできることがいかに幸せなことなのか」**を、改めて実感するものです。

「我慢と工夫」について、再度考えてほしいと思うとともに、限られた生活の中での楽しみをみつけてみませんか！？